

『無限の粒』

作詞・作曲 郡司博

春の惑いにざわめくまま

無垢なところは ふわふわ揺れ

木々に凭れる 果実の中

こぼれては染みとおる 君の言葉

立ち止まっても 忘れないでね

ここに灯火があることを

どうかどうか 幼き夢が

遠く未来へとどくまで

蒼い空へ飛び立ち

幾重の輝きにまぎってく

雨にうたれて

凍えそうな時でも

独りだけじゃないよ

ぼくらは無限の粒だから

校舎の影に 添う帰り道

浮かんでは舞い落ちる さくら模様

ちぎれそうでも はなさないでね

ひかり継ぎとめる手のひらを

いつかいつか 滲む涙を

拭いけしとる その日まで

白い雲をかきわけ

喜び哀しみ抱いてく

風に吹かれて

よろけそうな時でも

独りだけじゃないよ

ぼくらは無限の粒だから